

佐賀県の山や川、平野、海浜には、他県では見ることができない多彩な淡水魚や希少な哺乳類、昆虫類、両生類が生息しています。

川や
ため池に
生息する
淡水魚



(田島正敏氏 提供)

■ニッポンバラタナゴ
(絶滅危惧種)

方言名/たばや、でんばや、べんばや 全長 約5cm

繁殖期、メスの気を引くために、オスの体はキラキラと輝く美しいバラ色に変わります。近年は外来のタイリクバラタナゴの侵入のため、絶滅の危機にあります。



(田島正敏氏 提供)

■アリアケギバチ (絶滅危惧種)

方言名/ぎゅうぎゅう、ぎんぎよばち、ぎんぎよ 全長 約25cm

陸に上げると胸ビレ付近の骨をすり合わせてギューギューと音を出します。胸ビレと背ビレのとげには毒があるため、触るとハチに刺されたような痛みを感じます。これらの特徴から、「ぎゅうぎゅう」や「ぎんぎよばち」などの方言名がつけられました。



(田島正敏氏 提供)

■オヤニラミ

方言名/よつめ、よるめひるめ 全長 約12cm

えらの端にある目のような模様が、頭部にある本物の目を睨んでいるように見えることから、オヤニラミの名が付いたと言われています。オヤニラミより方言名の「よつめ」で知られています。

えらの端にある
暗い青色の
丸い模様が目
に見えます。



(田島正敏氏 提供)

■エツ

方言名/うばえつ 全長 約40cm

世界中で有明海灣奥部にだけ生息する魚です。5月~9月に筑後川や六角川で産卵します。稚魚は川やクリークで生育した後、11cmになると有明海に入ります。



(田島正敏氏 提供)

■ハゼクチ

方言名/はしくい、ながれはしくい、はぜ 全長 約60cm

日本では有明海灣奥部にだけ生息しています。春から秋に川で生活しますが、晩秋に有明海に入り、3月頃産卵します。寿命は1年の魚ですが、最大60cmになることもあります。ハゼクチに似たマハゼは玄界灘側にも生息します。マハゼの全長はハゼクチの半分ほどです。

海から
川に戻る
淡水魚

九州の尾瀬
「榎原湿原」に
生息する
昆虫類



(吉田喜美明氏 提供)

■ハッチョウトンボ
(唐津市七山)

全長 約2cm

ハッチョウトンボは、日本にいるトンボの中では一番小さいトンボです。榎原湿原では6月中旬から8月中旬に成虫が出現します。オスは鮮やかな赤色をしています。

山に
生息する
希少な
哺乳類



(副島和則氏 提供)

■ヤマネ (国指定天然記念物)
(藤津郡太良町)

全長 約7~8cm

標高983mの多良岳に生息する哺乳類です。リスのようなとてもかわいらしい姿をしています。木の穴に巣を作って冬眠します。夜行性なので、ほとんどその姿を見ることはありません。

■カジカガエル
(佐賀市富士町)

全長 約3~8cm

清流のシンボル、カジカガエルは、県内の山間部の溪流域に生息しています。夏になると日没後、オスは岩の上で鹿に似た美しい声でメスに向かって求愛します。

(吉田喜美明氏 提供)



清流に
生息する
両生類

玄界灘
沿岸に生息
する希少な
昆虫類



(吉田喜美明氏 提供)

■ヤマトマダラバッタ
(唐津市虹の松原)

全長 約3~4cm

自然にできた砂浜海岸にしか生息できないヤマトマダラバッタ。8月から10月に活発に動き回ります。虹の松原と西の浜に生息し、絶滅が危惧されています。

見どころスポット

佐賀県立宇宙科学館

住所: 武雄市武雄町永島 16351
電話: 0954-20-1620
開館時間: 【平日(火~金)】9時15分~17時15分
【土・日・祝日】9時15分~18時
休館: 毎週月曜日(祝日の場合、翌日)
料金: 大人510円、高校生300円、小・中学生200円、
幼児(4歳以上)100円

榎原湿原

住所: 唐津市七山池原
電話: 0955-53-7175
(唐津市七山
市民センター)

